

今日は I 列王記22章から「みことばを宣べ伝える」と題して2つの点でみことばを取り次ぎます。

1. みことばを宣べ伝える 1-28

今日の箇所はイスラエルの王アハブの死までです。アハブの最後はどうなったのでしょうか。

1-4【1 アラムとイスラエルの間に戦いがなく、三年が過ぎた。2 しかし、三年目になって、ユダの王ヨシャファテがイスラエルの王のところに下って来ると、3 イスラエルの王は自分の家来たちに言った。「おまえたちは、ラモテ・ギルアデがわれわれのものであることをよく知っているではないか。それなのに、われわれはためらっていて、それをアラムの王の手から奪い返していない。」4 そして、彼はヨシャファテに言った。「私とともにラモテ・ギルアデに戦いに行ってくださいませんか。」ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「私とあなたは一つ、私の民とあなたの民は一つ、私の馬とあなたの馬は一つです。』

20 章でイスラエルがアラムの軍隊に勝利した時、アハブはアラムの王と契約を結び、彼を去らせました。その契約の中に、アラムがイスラエルから取った町々を返還するとありましたが、アラムはラモテ・ギルアデをイスラエルに返していませんでした。三年間アラムとの平和な時代の後、アハブはラモテ・ギルアデを取り戻すために戦うことにしました。そこにユダの王ヨシャファテがやって来ました。ヨシャファテはアサの息子で、父に倣って主なる神に従う良い王でした。一方で、彼はイスラエルと友好関係を築くためにアハブの娘を自分の息子ヨラムの妻として迎えました。その結果、ヨラムの時代になると、ユダは主から離れてしまいます。アハブはヨシャファテに「ラモテ・ギルアデを取り戻すために一緒に戦いに行ってくださいませんか」と願うと、ヨシャファテは「イスラエルとユダは一つですよ」と言いました。

5-12【5 ヨシャファテはイスラエルの王に言った。「まず、主のことばを伺ってください。」6 イスラエルの王は約四百人の預言者を集めて、彼らに尋ねた。「私はラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼らは答えた。「あなたは攻め上ってください。主は王様の手にこれを渡されます。」7 ヨシャファテは、「ここには、われわれがみこころを求めることのできる主の預言者が、ほかにいないのですか」と言った。8 イスラエルの王はヨシャファテに答えた。「ほかにもう一人、主に伺うことのできる者がいます。しかし、私は彼を憎んでいます。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言するからです。イムラの子ミカヤです。」ヨシャファテは言った。「王よ、そういうふうには言わないでください。」9 イスラエルの王は一人の宦官を呼び、「急いでイムラの子ミカヤを連れて来い」と命じた。10 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、それぞれ王服をまとい、サマリヤの門の入り口にある打ち場の王の座に着いていた。預言者はみな、彼らの前で預言していた。11 ケナアナの子ゼデキヤは、王のために鉄の角を作って言った。「主はこう言われます。『これらの角で、あなたはアラムを突いて、絶ち滅ぼさなければならぬ。』」12 預言者たちはみな、同じように預言した。「あなたはラモテ・ギルアデに攻め上って勝利を得てください。主は王の手にこれを渡されます。』」

さすが主を信じるヨシャファテです。彼はアハブに「まず、主のことばを伺ってください」と言いました。そこでアハブは自分のお抱え預言者 400 人を集めて尋ねました。お抱え預言者は王の考えに対して、いつも賛成する預言をします。この時も全員が「ラモテ・ギルアデを攻め取ってください」と預言しました。しかし、ヨシャファテは疑問をいだき、「他にみこころを求めることのできる主の預言者はいないのですか」と言いました。アハブはミカヤがいることを告げ、ヨシャファテの願い通りミカヤを連れて来ることにしました。その間、お抱え預言者ゼデキヤは自分で作った鉄の角を持って、「アラムを絶ち滅ぼさなければならぬ」と預言しました。

13-18【13 ミカヤを呼びに行った使者はミカヤに告げた。「いいですか。預言者たちは口をそろえて、王に対して良いことを述べています。どうか、あなたも彼らと同じように語り、良いことを述べてください。」14 ミカヤは答えた。「主は生きておられる。主が私に告げられることを、そのまま述べよう。」15 彼が王のもとに着くと、王は彼に言った。「ミカヤ、われわれはラモテ・ギルアデに戦いに行くべきか。それとも、やめるべきか。」彼は王に答えた。「あなたは攻め上って勝利を得なさい。主は王の手にこれを渡されます。」16 王は彼に言った。「私が何度おまえに誓わせたら、おまえは主の名によって真実だけを私に告げるようになるのか。」17 彼は答えた。「私は全イスラエルが山々に散らされているのを見た。まるで、羊飼いのいない羊の群れのように。そのとき主はこう言われた。『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ自分の家に無事に帰らせよ。』」18 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「あなたに言ったではありませんか。彼は私について良いことは預言せず、悪いことばかりを預言すると。』

ミカヤを呼びに行った使者は、ミカヤに他の預言者と同じように、王の意見に賛成する言葉を告げるようにと伝えました。すると主の預言者であるミカヤは「主は生きておられる。主が私に告げられることを、そのまま述べよう」と答えました。王のもとに着いたミカヤはまず、「あなたは攻め上って勝利を得なさい。主は王の手にこれを渡されます」と言いました。これは皮肉を込めた言葉です。そんなにアラムと戦いたいならそうしなさいと皮肉を込めて言ったのです。アハブはそのことに気づき、真実を告げよと伝えます。するとミカヤは17 節で「全イスラエルの主人である王が死ぬので、羊飼いのいない羊のように、イスラエルは戦いに敗れて散らされ、退却する」と預言しました。

19-23【19 ミカヤは言った。「それゆえ、主のことばを聞きなさい。私は主が御座に着き、天の万軍がその右左に立っているのを見ました。20 そして、主は言われました。『アハブを惑わして攻め上らせ、ラモテ・ギルアデで倒れさせるのはだれか。』すると、ある者はああしよう、別の者はこうしようと言いました。21 ひとりの霊が進み出て、主の前に立ち、『この私が彼を惑わします』と言うと、主は彼に『どのようにやるのか』とお尋ねになりました。22 彼は答えました。『私が出て行って、彼のすべての預言者の口で偽りを言う霊となります。』主は『きっとあなたは惑わすことができる。出て行って、そのとおりにせよ』と言われました。23 今ご覧のとおり、主はここにいるあなたのすべての預言者の口に、偽りを言う霊を授けられました。主はあなたに下るわざわいを告げられたのです。』

さらにミカヤは自分が見た幻を伝えました。それは主が御前にいる御使いたちに、「アハブを惑わして、ラモテ・ギルアデで倒れさせるのはだれか」と言いました。すると一人の霊が「私がアハブの預言者たちの口で偽りを言う霊となります」と告げ、主はその通りにせよとこの霊を遣わしました。一人の偽りを言う霊とは、悪霊です。悪魔も悪霊も、神の支配の中で働くことが許されています。悪霊は王のお抱え預言者たちに偽りを言う霊となり、その結果、アハブの勝利を預言したのです。

24-28【24 ケナアナの子ゼデキヤが近寄って来て、ミカヤの頬を殴りつけて言った。「どのようにして、主の霊が私を離れ、おまえに語ったというのか。」25 ミカヤは答えた。「あなたが奥の間に入って身を隠すその日に、あなたは思い知ることになる。」26 イスラエルの王は言った。「ミカヤを捕らえよ。町の長アモンと王の子ヨアシュのもとに連れて行き、27 王がこう命じたと言え。『この男を獄屋に入れ、私が無事に帰るまで、わずかなパンと、わずかな水だけ与えておけ。』」28 ミカヤは言った。「もしも、あなたが無事に戻って来ることがあるなら、主は私によって語られなかったということです。」そして、「すべての民よ、聞きなさい」と言った。】

ミカヤの説明を聞いたゼデキヤは怒って、ミカヤの頬をなぐりつけました。この行為からして、彼が本当の主の預言者ではないことがわかります。王はミカヤを獄屋に入れ、「自分が帰ってくるまでわずかなパンと水を与えておけ」と命じ、ミカヤを獄屋に入れました。ミカ

やアハブに「もしも、あなたが無事に戻って来ることもあるなら、主は私によって語られなかったということです。」そして、「すべての民よ、聞きなさい」と言いました。預言者の預言が正しいかどうかは、その預言が成就した時にわかるのです。

さて、第一の点で覚えたいことは、みことばを宣べ伝える事の大切さです。Ⅱテモテ4:2-4にはこうあります。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、4 真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。」アハブはまさに、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みに従って、自分のためにお抱え預言者を寄せ集めました。それに対してミカヤは、主のことば、みことばを王の前で宣べ伝えました。それが主の預言者としての使命だからです。私たちも人の好む話を聖書から作り出して話すようなことをしてはいけません。むしろ、純粋なみことば、イエス・キリストの福音をいつでもどこでも誰にでも、宣べ伝えましょう。

2 神のことばの成就 29-53

29-33【29 イスラエルの王とユダの王ヨシャファテは、ラモテ・ギルアデに攻め上った。30 イスラエルの王はヨシャファテに言った。「私は変装して戦いに行きます。しかし、あなたは自分の王服を着てください。」イスラエルの王は変装して戦いに行った。31 アラムの王は、自分の配下の戦車隊長たち三十二人に次のように命じた。「兵とも将軍とも戦うな。ただイスラエルの王だけを狙って戦え。」32 戦車隊長たちはヨシャファテを見つけたとき、「きつと、あれがイスラエルの王に違いない」と思ったので、彼の方に向きを変え、戦おうとした。ヨシャファテは助けを叫び求めた。33 戦車隊長たちは、彼がイスラエルの王ではないことを知り、彼を追うことをやめて引き返した。】

結局、ミカヤの警告に従わず、アハブとヨシャファテは、ラモテ・ギルアデを取り戻すために、アラム軍との戦いに出かけました。アハブはミカヤの預言が気になっていたようで、自分は変装し、ヨシャファテには王の服を着るようにと伝えました。アハブは自分のいのちを救おうと思ったのです。アラム軍はヨシャファテをイスラエルの王と思って、攻撃しようとしていました。その時、ヨシャファテが助けを求めたので、アラム軍は彼はイスラエルの王ではないと知り、追うのをやめました。Ⅱ歴代誌 18 章を見ると、「主は彼を助けられた」とあります。

34-40【34 そのとき、ある一人の兵士が何気なく弓を引くと、イスラエルの王の胸当てと草摺の間に射抜いた。王は自分の戦車の御者に言った。「手綱を返して、私を陣営から出させてくれ。傷を負ってしまったから。」35 その日、戦いは激しくなった。王はアラムに向かって、戦車の中で立っていたが、夕方になって死んだ。傷から出た血が戦車のくぼみに流れた。36 日没のころ、陣営の中に「それぞれ自分の町、自分の国へ帰れ」という叫び声が伝わった。37 王は死んでサマリアに運ばれた。人々はサマリアで王を葬った。38 それから戦車をサマリアの池で洗った。犬が彼の血をなめ、遊女たちがそこで身を洗った。主が語られたことばのとおりであった。39 アハブについてのその他の事柄、彼が行ったすべてのこと、彼が建てた象牙の家、彼が建てたすべての町、それは『イスラエルの王の歴代誌』に確かに記されている。40 アハブは先祖とともに眠りにつき、その子アハズヤが代わって王となった。】

一方、アラムの兵士が何気なく弓を弾くと、アハブの鎧の隙間を射抜き、アハブは致命傷を負いました。それでも夕方まで戦車の中で立ちましたが、夕方になって死にました。そして、退却の叫び声が陣営に伝わり、民はイスラエルに戻りました。アハブの遺体もサマリアに運ばれ、葬られました。それから、アハブの乗っていた戦車をサマリアの池で洗うと、犬がアハブの血をなめ、遊女たちがそこで身を洗いました。これは21:19でエリヤがアハブに語った預言の成就です。アハブはこの世的にはイスラエルを繁栄させました。現在サマリアの遺跡にはアハブ時代のものがかなり発掘され、その栄華ぶりを知ることができます。しかし、霊的にはイスラエル最悪の王でした。

41-50【41 アサの子ヨシャファテがユダの王となったのは、イスラエルの王アハブの第四年であった。42 ヨシャファテは三十五歳で王となり、エルサレムで二十五年間、王であった。その母の名はアズバといい、シルヒの娘であった。43 彼はその父アサのすべての道に歩み、そこから外れることなく、主の目にかなうことを行った。しかし、高き所は取り除かなかった。民はなおも、その高き所でいけにえを献げたり、犠牲を供えたりしていた。44 ヨシャファテはイスラエルの王と友好関係を保っていた。45 ヨシャファテについてのその他の事柄、彼が立てた功績とその戦績、それは『ユダの王の歴代誌』に確かに記されている。46 彼は、父アサの時代にまだ残っていた神殿男娼をこの国から除き去った。47 そのころ、エドムには王がなく、守護が王であった。48 ヨシャファテはタルシシュの船団をつくり、金を得るためにオフィルに行こうとしたが、行けなかった。船団がエツヨン・ゲベルで難破したからである。49 そのとき、アハブの子アハズヤはヨシャファテに、「私の家来をあなたの家来と一緒に船で行かせましょう」と言ったが、ヨシャファテは同意しなかった。50 ヨシャファテは先祖とともに眠りにつき、先祖とともに父ダビデの町に葬られた。その子ヨラムが代わって王となった。】

41-50 はユダの王ヨシャファテについてです。彼はアサの子で父に倣い、主に従い、主の目にかなうことを行いました。しかし、イスラエルの王との友好関係によって、主の道から外れることになりました。ヨシャファテは、なぜミカヤの預言を聞きながら、アハブと一緒に戦いに出たのでしょうか。それは、神との関係より、人との関係を大事にしたからです。神は戦いの中でヨシャファテを助けてくださいました。けれどもⅡ歴代誌 19 章を見ると、ヨシャファテがエルサレムに戻ると、預言者がヨシャファテの行為を断じ、このことのゆえに主の怒りが下ると伝えました。

51-53【51 アハブの子アハズヤは、ユダの王ヨシャファテの第十七年にサマリアでイスラエルの王となり、二年間イスラエルの王であった。52 彼は主の目に悪であることを行い、彼の父の道と彼の母の道、それに、イスラエルに罪を犯させた、ネバテの子ヤロブアムの道に歩んだ。53 彼はバアルに仕え、それを拝み、彼の父が行ったのと全く同じように行って、イスラエルの神、主の怒りを引き起こした。】51-53 はアハブの子アハズヤについてです。彼も父と母の道を歩み、バアルに仕え、ヤロブアムの道を歩んだ結果、主の怒りを引き起こしました。

第2に点で覚えたいことは神のことばは必ず成就するということです。アハブに対するミカヤの預言は成就し、アハブは死に、イスラエルはアラムに負けました。アハブは21章でエリヤの警告を聞いた時に、へりくだり、悔い改めの姿勢を表しました。しかし、その悔い改めは表面的、一時的なものであり、今日の22章では主のことばを無視して戦いに行きました。けれども、心のどこかでミカヤのことばを気にして、変装していきました。しかし、神の前では人間の小手先の対策は無意味であり、アハブは預言どおり死にました。新約聖書を見ると、イエス・キリストの誕生、生涯、十字架の死と復活はすべて旧約聖書の預言の成就であったことが記されています。このみことばの成就を知る時に、聖書が確かに神のことばであり、イエスはまことの救い主であることを知ります。神は私たちを救うために、旧約聖書に約束されたとおり、救い主イエスをお与えくださいました。このイエスの救いを信じた私たちは、真実な神のことば、みことばを生涯宣べ伝えましょう。